

第三十四回 宮島全国短歌大会

花山 多佳子 先生 選

入賞作品集

広島県知事賞

(五二四)

山口

武重

周子

避難指示速報響く午前二時逃げぬと決めし家うち静か

日本歌人クラブ賞

(六一一)

奈良

松井

純代

夏にのみ肩にあらわれる小さき痣これがわたしと言いはるように

広島県歌人協会賞

(四〇八)

岡山

赤田

文女

水害の後を星々輝やけりわれら二人にことばは消えて

山口県歌人協会賞

(三四三)

大阪

向井

靖雄

鷹柱立つ秋天下伊予灘たかばしら いよなだに兄の鯖船一本釣りす

宮島全国短歌大会実行委員会賞

(二五九)

広島

香川

哲三

榎川えのきがは氾濫せしとふ避難指示メールは夏日まばゆき道に

広島県教育委員会賞

(一六〇)

山口

宮崎

稔子

内海をわたる陽気な船にのり友来るらしも大寒のけふ

廿日市市長賞

(三五二)

島根

小山

美保子

青蚊帳の中で泳いだ少女の日麻の匂いのごわごわの海

廿日市市教育委員会賞

(三二三)

山口

横山

信子

いい事があるかのように街路樹に蟻のいち列登りゆきたり

嚴島神社賞

(二九〇)

広島

田辺

操子

動物の絵本をめくり「たしかに」と繰り返す言うもうすぐ二歳

宮島観光協会賞

(一三六)

福岡

岸原

修

児童らの帰りし午後の教室に齒形残れる鉛筆拾ふ

中国新聞社賞

(三六四)

山口(防府市)藤本

征子

ライト点けし車が豪雨に吞まれ行く若き日に見し牛流れゆくを

NHK広島放送局賞

(四六)

福岡

飯田

俣子

曇天にひばりの声の響くたび老猫の耳ぴくりと動く

中国放送賞

(三六七)

広島

堀内ほりうち

孝子たかこ

集中豪雨に押し流されし児を探す隊員ら猛暑の瀬野川進む

広島テレビ賞

(四六八)

広島

伊藤いとう

玲子れいこ

山崩れ避難の辛さいふときも画面に人は笑みを保ちぬ

広島ホームテレビ賞

(四二六)

福岡

西山にしやま

博幸ひろゆき

薯畑に番小屋づくり番小屋に幾夜泊りき祖父の虎吉

テレビ新広島賞

(四六〇)

山口

石井いしい

久美子くみこ

整骨院のガイコツずっと立っていていつの間にやら老いてゆきたり

優秀賞

(一)

福岡

中村

重義

両の掌に包む林檎の温もりは福島の友の温もりに似る

優秀賞

(三)

山口

弘兼

安雄

パラソルを掲げ畑の草を引く陰から腕をはみ出させつつ

優秀賞

(一九)

埼玉

若山

巖

楊枝より小さき泥鰯を子の掬う花菖蒲園の浅き流れに

優秀賞

(九三)

広島

三原

豪之

「はやぶさ2」<sup>ツ</sup>を制御してゐるJAXA<sup>クサ</sup>にもてる坊主の吊るされてゐし

優秀賞

(一三八)

広島

若林

美知恵

足癖のままに傾げる母の靴誂えしごとわが足に添う

優秀賞

(一四一)

広島

津村

スマ子

アメンボの群れいるごとく基地にあり航空写真の戦闘機の群れ

優秀賞

(二六四)

千葉

境

泰子

記録的豪雨の日から十日たち帰らぬ息子を待ち立ちつくす母

優秀賞

(二六九)

福岡

江藤

金博

四十五年無事故で配達せしことを妻と語らふ今日廃業に

優秀賞

(二七七)

広島

縄田

妙子

夕光の朱のかすかなる仁保橋を娘と添ひてゆくひとつ思ひに

優秀賞

(三七七)

広島

小野

系子

夕暮れに息子らふたり寄り添ひてアンパンマンのアニメ観てゐし

優秀賞

(四二九)

山口

正木

紀子

声高に異国の言葉とび交へる基地ある町の乗り合ひバスに

優秀賞

(五二七)

広島

橘和

淑子

歩行器をかすかに揺らし運動をしようと云いき九十五の母

優秀賞

(五五九)

千葉

吉田よしだ

義宏よしひろ

あちこちの畑にみかん転がりて採る人もなき夕暮れの里

優秀賞

(六四二)

広島

木戸きど

博恵ひろえ

出身を聞けば東北、熊本と答へくれたり若きボランテイヤ

優秀賞

(六七七)

広島

小山こやま

美恵子みえこ

打ち上げの花火見てゐる老人が目尻の皺にたたむ淋しさ